

「この街」のために。「あなた」のために。

# そうこう®

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2019年6月号(月刊) 発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



2019 / 6月発行 / vol.049

特集 耳鼻咽喉科 ▶

注意すべき『耳鼻咽喉科疾患』について

NEWS&TOPICS ▶

リハビリテーション科『症例発表会』ほか

# 注意すべき

# 耳鼻咽喉科疾患

## について

耳鼻咽喉科部長 新鍋 晶浩



こんにちは。行田総合病院耳鼻咽喉科の新鍋です。

今年も気温が30度を超えるような暑い日が多くなってきました。屋外で働かれている方も、屋内で働かれている方も十分な水分補給と休息を心がけ、体調を大きく崩すこと無いように過ごしていきたいですね。

今回も「そうこう」で耳鼻咽喉科を紹介する機会を得ましたので、当科の現状と注意すべき耳鼻咽喉科疾患の一部をご紹介します。

### 当院の耳鼻咽喉科

はじめに外来診療についてご紹介いたします。

耳鼻咽喉科は行田総合病院附属行田クリニック1階、受付より左手奥(B館)にあります。耳、鼻、咽頭、喉頭、頸部などに生じる様々な疾患に対し、外来看護師、臨床検査技師(聴力検査、超音波検査、穿刺細胞診検査)

合には、手術療法をすすめることがあります。全身麻酔の場合には手術前日までに入院し、手術当日に行田総合病院内にある中央手術室(西棟1階)で行っています。

手術室では麻酔科医師、手術室看護師、助手、他の診療科医師の厚い協力体制のもと、これまで気管切開術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、鼓室形成術などの手術を行っています。

耳鼻咽喉科の患者さまが入院する病棟は、新南棟の2階となります。脳神経外科、眼科、そして内科の患者さんを担当している病棟ですので、頭頸部外科と標榜されることもある耳鼻咽喉科にとって理想的な環境にあります。

その他、院内のさまざまな職種スタッフのサポートに支えられておりまして、この環境を活かし、地域の皆様のニーズに少しずつ応えていければと思っております。

ど、放射線技師(レントゲン、CTやMRI検査など)、および他の診療科と連携をとりながら診療を行っております。おかげさまで診察室の医療機器が充実し、顕微鏡、電子内視鏡(細径)、赤外線CCDカメラを用いて、より詳細な観察が可能となりました。観察部位がモニターに表示されますので、患者さんや付き添いの方もその様子をご覧いただけます。

顕微鏡で耳垢を掃除している様子もモニターに映りますので、「これ鼓膜? うわ! すげえ、はじめてみた!」とお子さん達にも好評です。

そうはいいまして、小さいお子さんはもちろん、大人だって首から上を扱う耳鼻科の診察はおっかないと感じる方もいるかと思しますので、なるべく安心して診療を受けることができよう配慮しております。

外来通院にて病状の改善が見込めないと判断されるような場

### 注意すべき

#### 耳鼻咽喉科疾患

##### について

##### ①扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎

通常感冒による咽頭痛は、発症して数日から5日程度で軽快することが多いですが、中には扁桃炎、さらに重症化し扁桃周囲にまで炎症が波及し扁桃周囲膿瘍(図1)を発症することがあります。そうなると水分摂取が難しくなるだけでなく、のどの左右どちらかの激しい痛みや耳痛、口が開けにくくなるといった症状が生じます。さらに悪化すると、気道の浮腫による呼吸困難感、頸部の発赤腫脹、そして最終的に心臓周囲や肺にまで膿瘍が広がり致死的な状態になってしまいます(図2)。

そのため、のどの痛みが続く場合には水分、栄養、休息をできるだけ確保するようにし、改善がなければ早めの受診をおす

すめします。

疾患の予防には禁煙も大切で、それでも急性扁桃炎や扁桃周囲膿瘍を繰り返す場合には、口蓋扁桃摘出術の相談をすることがあります。

急性喉頭蓋炎とは、発声や呼吸のために大切な声門の上にある蓋が炎症のために腫脹した状態です(図3)。それほど頻度は高くありませんが、咽頭痛を自覚してから多くは24時間以内に急激に進行すること、気道が狭窄し命をおとす危険性があることが大きな問題です。インフルエンザ菌による髄膜炎の発症予防のためのHib(ヒブ)ワクチンの普及に伴い、幸いにも子どもでみることはなくなってきましたが、成人ではいまだ予防の難しい疾患です。のどの炎症といわれて薬を処方されて自宅

で安静にしている際に、痛みが刻々と悪化するようであれば、息苦しさが強くなる前に再度受診する必要があります。

### ②副鼻腔炎による眼窩内合併症

通常感冒による鼻汁は、はじめは水様性で次第に膿性の鼻汁となり、1週間から10日程度で自然に軽快します。鼻の中をのぞくと、鼻甲介という粘膜におおわれた突起物が鼻腔の外側から垂れ下がるように存在し、鼻甲介の間のくぼみの奥に副鼻腔とよばれる骨の中の空洞があります。その副鼻腔の位置は、顔の表面でいうところの頬の部分(上顎洞)、目の内側の部分(篩骨洞)、おでこの部分(前頭洞)、一番深いところには下垂体や視神経(蝶形洞)に接するところと複数存在しています。

鼻炎が副鼻腔に波及した状態が副鼻腔炎であり、これまで副鼻腔炎が無い状態で急性に発症した場合は急性副鼻腔炎、もともと慢性副鼻腔炎(いわゆる蓄膿症)があり、感冒などを契機に炎症が急に悪化した場合には慢性副鼻腔炎の急性増悪として

治療にあたります。急性炎症が長引いて悪化すると副鼻腔の炎症が眼窩内に波及し、目の周りの発赤腫脹、視力障害といった合併症を生じることがあります。鼻汁はあまりすすらないように注意し、目の近くに痛みを強く感じるようであれば、それ以上悪化する前に受診しましょう。保存的治療(薬や処置)により症状は軽快しますが、軽快が得られない場合は鼻副鼻腔手術(多くは内視鏡下に行います)をすすめることもあります。

### ③真珠腫性中耳炎による頭蓋内合併症

誰しも子どもの頃に一度は中耳炎といわれた経験があるかと思えます。多くは後遺症をきたすこと無く治癒しますが、中耳炎が遷延あるいは反復した結果、鼓膜に何らかの後遺症をきたすことがあります。その後遺症には、鼓膜の穴が残ってしまった慢性穿孔性中耳炎、鼓膜

が薄くなって奥の骨壁に癒着した癒着性中耳炎、骨を徐々に溶かしてしまつ真珠腫性中耳炎があります。中でも真珠腫性中耳炎は、難聴や耳漏(とごま)が、めまい、顔面神経麻痺、さらには髄膜炎や脳膿瘍(図4)といった致命的な合併症へとつながる危険性があります。特に、耳漏や角化物が持続的に排出されている活動性のもの、痂皮が堆積してとれない場合においては、骨の溶解が進行しやすいため、真珠腫を除去し中耳を形成する鼓室形成術が必要で、術後の再発も起こり

やすいため、進展している場合には手術を2回に分けて行うこともありますが、医療機器や技術の発展に伴い、手術侵襲は以前と比較し軽減されてきています。できることならば顔面神経麻痺や脳膿瘍などの重篤な合併症が出現する前に、治療を受けるべき疾患です。「片方の耳が聞こえるし、通院しても変化がないためもう何年も耳鼻科にかかっていません」という方、耳のクリーニングをかねて一度いらしてみませんか?

#### ●耳鼻咽喉科外来医師担当表

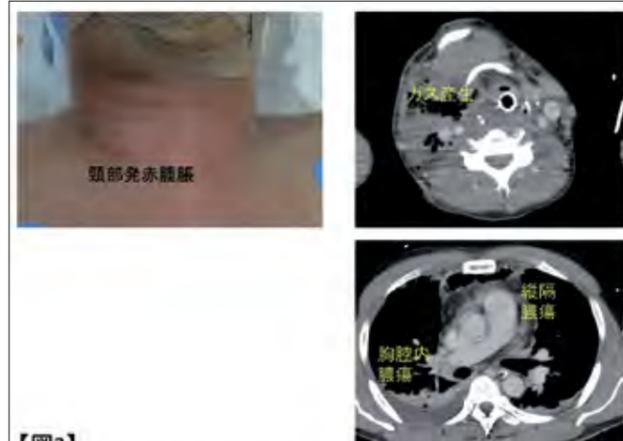
行田クリニック		月	火	水	木	金	土
B館7診	午前	新鍋医師	新鍋医師	新鍋医師	白坂医師	新鍋医師	見澤医師
	午後	補聴器外来		新鍋医師	白坂医師	新鍋医師	



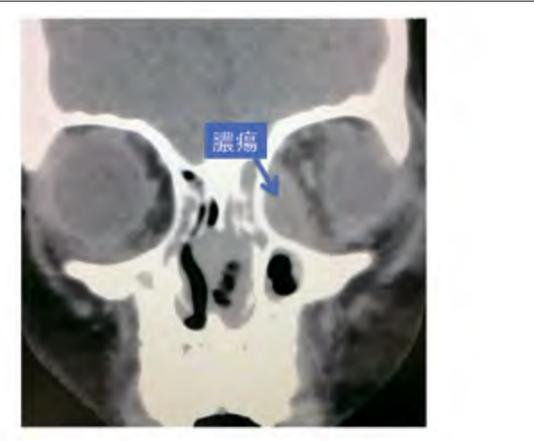
【図1】扁桃周囲膿瘍のシエマ



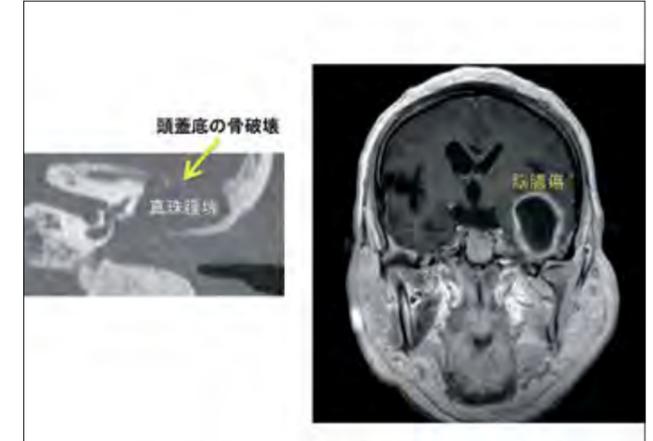
【図3】急性喉頭蓋炎



【図2】ガス産生菌による頭部および胸腔内膿瘍



【図4】副鼻腔炎による鼻性眼窩内膿瘍



【図5】真珠腫性中耳炎による耳性脳膿瘍(左)





## ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

### ●健診担当からのお知らせ

**6月1日より行田市特定健診が始まっています。期間：2019年6月1日～2020年2月29日**

行田市より受診券が届きましたらご予約できます。  
当院での健診をご希望の方は、お電話にて事前のご予約をお願いします。

▶ご予約・お問合せ

**TEL.048-554-0005** (健診担当)

目的：生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームに着目した健診。  
対象者：40～74歳までの方で、国民健康保険に加入の方（行田市在住の方）。  
検査内容：身長・体重・腹囲・血圧・血液検査 等。  
自己負担学：500円（70歳以上および所得により無料）詳しくは受診券をご覧ください。

※当院では市健診の他にも個人や企業向けなど、様々なタイプの健診を行っています。  
詳しくはホームページをご参照ください。

[行田クリニック 健診担当]



### ●頭痛外来／脳神経外科からのお知らせ

**毎週火曜午前に頭痛外来を行っています。**

#### ●誰もが経験のある頭痛。

「頭痛くらいで...」と思わないで、一度「頭痛外来」を受診してみてください。  
まずはあなたの頭痛が「他の病気が引き起こしている頭痛」なのか「多くの人を悩ませている慢性頭痛」なのかを問診・診察・検査を通して判断します。

#### ●「他の病気が引き起こしている頭痛」の場合

その原因となっている病気を治すことが治療の目的となります（例：風邪、発熱などのほか、稀にくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、髄膜炎など、危険な病気も含まれます）。

#### ●「多くの人を悩ませている慢性頭痛」の場合

治療目的はその頭痛自体をコントロールする事が重要となります（例：偏頭痛、緊張型頭痛、群発性頭痛など）。

頭痛外来では、頭痛全般について診断を行い、病状によっては適切な診療科を紹介させていただきます。

[行田総合病院「頭痛外来」／脳神経外科]



### ●「下肢の血管専門外来」／血管外科からのお知らせ

**ところで、『足のむくみ』が気になっていませんか？**



一過性ではなく数日間『足のむくみ』が続くような場合には病気の可能性があります。

- ・足がだるい
- ・足の血管がポコポコと浮き出ている
- ・夕方になると足がむくむ
- ・夜間に足がつりやすい

このような症状を少しでも感じたら受付窓口にご相談ください。

血管外科医による診察を行っています。

[行田総合病院「下肢の血管専門外来」／血管外科]